

食料・エネルギーの「地産国消」に貢献する

社会情勢の大きな変化、SDGsの潮流の中で、建設業界では「新4K」や「ESSG」の取組が焦眉の急となつておる、地域課題の解決、社会貢献の観点が重要視されつつある。このため、会員各社が関係機関との連携・協力を図りながら行っている食料・エネルギーの「地産国消」の取組を紹介し、地域、社会貢献に関する行政とのパートナーシップの深化を図る。

vol.6

ニラの出荷調整を担う「そぐりセンターア」日本一のニラ産地の維持・発展へ

清水建設株式会社 フロンティア開発室 自然共生事業部
神成 篠司

自然との共生を軸とした

הנִּזְמָן לְמִשְׁמָרָה וְלְמִשְׁמָרָה

二〇〇六年に「排出権プロジェクト推進部」を新設した頃にさかのぼります。地球温暖化の様々な影響を受ける第一次産業の様々な課題解決のために、当社の環境管理技術などを生かした農業ビジネスが有効と考え、二〇一四年に北海道におけるイチゴの生

産事業を開始しました。

また二〇一九年には中期経営計画において、非建設事業の収益基盤確立やESG経営の推進により、企業価値向上やSDGsの達成に貢献することを基本方針の一つとしました。新規事業分野で地域・社会の課題解決に貢献し、持続的成長を続けていくため、「自然共生事業部」を創設し、農林水産業等の

関連事業を軸に環境配慮や地域社会への貢献などを含むESG経営の実践的な取り組みを行っています。

「地域課題の解決」と「地域との連携」という「ンセプトの事業

国内では、民間企業による大型投資・大規模栽培施設での雇用型営農が増加したことで、生産農家数や作付面積の減少などの課題解決に貢献しようとする取り組みが増えて います。企業が農業に新規参入するケースでは、地元の生産者やＪＡとは関わりを持たず、独自の方法で、ビジネス展開をするケースが多いのも特徴であり、当社が参画するイチゴ生産事業もその一端と言えます。

業もその一端と言えます。

一方で高齢化による人材不足等に伴い、大規模化するだけでは解決できない地域固有の課題が山積し

高知県が直面する 産地維持という課題

当社は、一〇一六年頃より農林中央金庫と共同で全国の農業における地域課題を抽出し、農産物生産地として特に高いブランド力を誇る高知県を題材に事業の調査・スタディを開始しました。

域課題の解決」

と「地域との連携」というコンセプトのもと、地域と連携

しながらこれら
の課題を解消す

ることで、永続的に農業を行うことが出来る

構築してきました

高知県はユズ、ショウガ、ニラ、ミョウガ、シントウなどが生産量日本一の農業県であり、県を挙げてオランダと交流を通じた先端農業技術活用等の試みを行っています。一方、他県同様に担い手の減少と高齢化が深刻な問題であり、省力化技術の導入だけでは労働力不足を補うことが困難でした。例えば、高知県のニラの生産量は、二〇一一年から二〇二〇年の一〇年間で一四・四%減少、作付面積は八・九%減少というデータがあり、深刻な地域課題が顕著に表れています（出典：農林水産省 野菜生産出荷統計）。

令和4年度ニラの単収と出荷率（出典：農林水産省、令和4年度野菜生産出荷統計）

令和4年度ニラ	作付面積	10a当たり収穫量	収穫量	出荷量(出荷率)
全国	1,890ha(100)	2,870kg(100)	54,300t(100)	49,800t(91%)
高知県	250ha(13)	5,720kg(198)	14,300t(25)	13,800t(97%)

※収穫量：収穫したもののうち、生食用、加工用として流通する基準を満たすものの重量。
※出荷量：収穫量から生産者の自家消費、生産物を贈与した量、収穫後の減耗等を差し引いた重量。

ニラの生産においては、収穫したニラの古い葉や枯れた葉などを除去（そぐり）作業）し、計量して結束するまでの出荷調整作業が、農家の作業の六・七割を占めると言われており、この作業を内職で請け負う方（そぐり手）が高齢化により減少したこと、産地維持や規模拡大ができないという課題を抱えています。高知県による調査では、「そぐり」の労働力不足や農業従事者の高齢化を背景に、近い将来、ニラ農家の

トウなどが生産量日本一の農業県であり、県を挙げてオランダと交流を通じた先端農業技術活用等の試みを行っています。一方、他県同様に担い手の減少と高齢化が深刻な問題であり、省力化技術の導入だけでは労働力不足を補うことが困難でした。例えば、高知県のニラの生産量は、二〇一一年から二〇二〇年の一〇年間で一四・四%減少、作付面積は八・九%減少というデータがあり、深刻な地域課題が顕著に表れています（出典：農林水産省 野菜生産出荷統計）。

高知県はユズ、ショウガ、ニラ、ミョウガ、シントウなどが生産量日本一の農業県であり、県を挙げてオランダと交流を通じた先端農業技術活用等の試みを行っています。一方、他県同様に担い手の減少と高齢化が深刻な問題であり、省力化技術の導入だけでは労働力不足を補うことが困難でした。例えば、高知県のニラの生産量は、二〇一一年から二〇二〇年の一〇年間で一四・四%減少、作付面積は八・九%減少というデータがあり、深刻な地域課題が顕著に表れています（出典：農林水産省 野菜生産出荷統計）。

戸数が約半数に、出荷量は三分の一程度に減少するという深刻な試算値も出ています。

このような背景を受けて、今後の地域課題解決には、行政との連携が不可欠と判断し、二〇一七年七月に今後の幅広い展開に向けて、高知県、農林中金、清水建設の三者間で連携協定を締結し、ニラの出荷調整に関する詳細な調査・検討を開始しました。

二〇一八年七月からは、清水建設と高知県内のJAが中心となり、南国市のJA出荷施設内において一年間に渡ってニラの出荷調整作業に関する実証実験を実施し、その結果、事業化の目途が付いたことから会社を設立しました。

ニラ生産を取り巻く環境と地元との信頼醸成

会社設立にあたり、地元からは大手建設会社による農業参入に戸惑う声も聞かれました。まずは、JAを通じたニラ生産部会の皆さんへの説明会で、『産地維持のために役に立ちたい』という当社の趣旨を丁寧に伝えるところから始め、綿密なヒアリングを通して、それまでの作業工程における欠点や無駄を洗い出しながら、「そぐり」作業を機械化・システム化した「そぐりセンター」を高知県香南市に開設しました。次第に品質（等級）や歩留が改善されてきたことを受けて、そぐりセンターに足を運ぶ農家さんが増え始めました。農家さんとの交流が生まれたことで、互いの信頼の醸成につながり、初年度に一三〇トン／年だった処理量が、四年目には二九〇トン／年にまで増加しました。将来的な地域のニラ生産の集約化や生産拡大に向けて、効率的な「そぐり」や採算性などを具体的に「見える化」し、農家が自ら考える環境を整備したその意義は大きいと考えています。

シミズ・アグリープラス株 そぐりセンターの概要と実績・評価

そぐりセンターは、高知県香南市野市町のJA集

試験を実施し、その結果、事業化の目途が付いたことから会社を設立しました。



ニラの出荷調整作業（そぐり）



そぐり設備と作業の概要

出荷場内にあります。そぐりセンターのある香南市野市地区と隣接する香美市土佐山田地区が県の主要二ラ産地であり、県内の約六〇%を生産しています。現在一六〇軒超の農家がJAを通して出荷しております。うち四割の農家にそぐりセンターをご利用いただいております。そぐりセンターでは、周年で作業受託を行っており、常時十数名の従業員に活躍していた

だいています。

(2)設備概要

二ラの出荷調整処理ラインは、主に①そぐり機、

①そぐり機により
不要な葉を除去
(風圧・水圧)

②機械による
そぐり残しを
チェック

②計量装置、③結束機から成っており、現在四ラインを保有しています。そぐり機とは、水と風圧で二ラの外側にある古い葉や枯れた葉などを除去する機械です。そぐり機で不要葉を除去し、100g/束に計量した後、結束機で農家名が印字されたテープで結束しており、二ラの状態に合わせて二～四人／ラインで作業を行います。

(3)処理作業概要

高知県は温暖な気候を活かした二ラの周年栽培が可能ですが、特に三月～六月は生産量が多く、最盛期では日量一・五～一・七トン程度の処理を行っています。民間企業がJAと協力して二ラ専門の出荷調整施設を設置したのは全国初であり、企業のノウハウを活用した作業効率化を推進しています。季節毎、農家毎に二ラの品質や状態が大きく変わることから、機械の設定やオペレーション体制を都度変更し、最適な効率化や品質の平準化が出来るように詳細なデータ管理を行っています。

(4)人材不足の解消・作業負担の軽減

そぐりセンターの開設により、農家のそぐり作業の負担が軽減され、空き時間を活用したきめ細やかな栽培管理の実施や作付面積の拡大に時間・労力を割けるようになりました。そぐりセンターは、農家が収穫した二ラを持ち込むだけで、その後のJA出荷までの作業をワンストップで提供しています。

(5)農家の所得向上

本事業をJAと協働で進めることで、二ラの品質管理が徹底されるようになりました。日々品質が変

化する中、作業方法をJAと協議しながらリアルタイムに決定することで、二ラの等級が一階級、歩留が一〇%程度向上し、農家の所得向上に寄与しています。

そぐりセンター設置による 地域・現場の変化

(1)出荷量維持が困難な農家の出荷調整作業を代行

そぐりセンターでは、そぐり手の離職等で出荷量維持が困難な農家が増えていることを受けて出荷調整作業を代行していますが、対象外としていた遠隔地からの委託希望も増加しており、随時受託エリアや処理量を拡大して対応しています。

特に、そぐりセンターまでの個人出荷が困難な中山間地域では、JA協力のもとで定温トラックによる野菜輸送便の運航を開始しており、県が課題として挙げる中山間地域における営農の一助となっています。

(2)刈り捨てていた二ラの商品化

これまで人手不足により出荷できずに刈り捨てていた（出荷できなかつた）二ラを、そぐりセンターで処理することが可能になつたため、そぐりセンターだけで約六〇トン／年の二ラを商品化して流通しました（二〇二二年度実績、受託量の約二〇%）。これにより農家の所得向上に寄与しています。

(3)地域雇用の創出

これまでに正社員・パート従業員を合わせて延べ三五人の雇用を創出しました（令和六年三月末時）。

(5)新規就農者・転作農家がニラ栽培を選択可能に！

これまで県内外からの新規就農者、転作農家ではそぐり手の確保がネックとなり、ニラの生産に踏み出せない方が多数いました。当該地域ではニラが高収益作物であり、他の作物からの品目転換を希望する農家が多く、そぐりセンターが稼働してからは、新規就農者と併せて数件の農家がニラ生産に参入しています。



現地のスタッフ

(6)ニラ以外の品目への新たな展開

地域ではニラ以外の作物でも労働力不足に悩む同様の課題が山積しています。現在、県の農業振興部やJA等と課題の抽出を行なが

市の福祉事務所や障害者就業支援センターなどと連携し、農福連携を視野に入れた人材活用を推進しています。これまでの雇用経験を活かし、地域と連携した雇用を更に進めていく予定です。

(4)耕作面積を拡大する農家の出現

そぐりセンター利用により農家が出荷調整作業の負担が軽減され、耕作面積の拡大にチャレンジする農家も出てきました。県内では高齢により離農する農家が増加しています。近年、県内ではニラの生産者数が減少している中、生産量は横ばい傾向にあります。

の連携も視野にこれらの課題解決に貢献していきました

(7)地域への教育・広報活動

地域を代表するニラ生産は、小学校の社会科学習でも取り上げられています。そぐりセンターは地域のJAと共同で小学生の社会科見学対応を行つており、地域の産業を理解していただく教材として施設を提供しています。また地元で有名なユーチューバーが出演する農業番組や全国ネットの経済番組でTV取材を受けるようになっており、県内外に高知県の農業をアピールする機会となっています。



テレビ取材/社会科見学の様子

最後に ～地域の課題解決へ最初の一歩～

当社が現在取り組んでいるニラの出荷調整事業について紹介させていただきました。シミズ・アグリプラス株が高知県で事業を開始して以降、県内の各種団体や農家さんから様々な意見を頂戴し、少しずつ地域に認知されるようになつたことで、令和四年度には地域産業の維持・活性化に資する取り組みとして、「第三七回高知県地場産業奨励賞」を受賞しました。

またSDGsという視点でも積極的に取り組んでいくことが社会的に求められており、同社が令和五年度に県が推進する「こうちSDGs推進企業」として登録されました。今後も地域課題の解決に向け、地域を活性化する事業者として着実に歩んでいきました。